「ねこがみさま」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　藤本　知子

　　1

かたり　むかしむかし　幡多の中村に一条公という　お殿さまがおったと。そのお殿さま

　　　　には　つばき姫さんいうて　それはそれは美しゅうて　たいそう可愛らしい

　　　　お姫さんがおったと。

　　　　　ほいたらどういうことがあったか　その辺のことは　ようわからんが　中村

　　　　のお屋敷から　ちっくと南の三原村という所へ　住まいを移されたそうなが

　　　　そのとき姫はおんとし七歳　なんとも愛らしい姿に　村びとらあは

女　めっそうもない　べっぴんのお姫さんじゃねぇ

男　わしらあ見たこともない　きれえな着物をきいちょる

かたり　こんな噂をして　騒ぎよったと。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ぬく

　　2

かたり　ほいたらのう　このつばき姫さん　体はほっそりとして　顔の色も雪のように

　　　　白うて　風が吹いたら飛びそうな　弱々しい感じじゃった。ほんでか　あんまり

　　　　外を走りまわるようなこともせんと　家のなかで一匹の子猫と遊ぶことが多か

　　　　ったと。

姫　みゆき　みゆき

猫（なく）　ニャオー

かたり　猫の名前はみゆき　真っ白なふさふさとした毛　それはまるで深い雪のようだ

　　　　ったので　みゆきと名をつけ　姫はまるでじぶんの妹のように可愛いがってお

　　　　った

姫　みゆき　こっちへおいで

猫　ニャオー　ニャオー

かたり　ちゃあんと　返事をするみたいだったと。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ぬく

　　3

かたり　それは　ひっそりと静かに暮らしよった　ある年の春のことじゃったと。

　　　　　お母さんがわりで姫を育てよった乳母のたきが

たき　姫さま　今日はええ日ですけん　外へ出て遊びましょう

姫　そうねぇ　外はぬくそう　みゆき　おいで　外へゆくよ

猫　ニャオー　ニャオー

たき（遠くから）　ほらほら姫さま　きれえなスミレの花が　咲いていますよ

姫　うわァ　こっちにはレンゲの花がいっぱい　これこれみゆき　だめよ　レンゲの花

　　を散らしたら

かたり　ほいたら（突然）姫のしあわせな時も　あっという間に　消されてしもうた

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　さっとぬく

　　4

かたり　今の今まで　青く晴れ渡っちょった空が　みるみる内にまっ黒うなって　あた

　　　　り一面のヤミ　その上　風をまくような　ごーっという　すざましい音　それ

　　　　こそ乳母のたきが　たまげて

たき　姫さま　姫さま　姫さまはどこ

かたり　大きな声で呼ぶが返事がないと

たき　忠助どの　平左どの　姫さまがおらん　早うさがして下され

かたり　こういうて家来たちに　その辺一帯を探してもろうたが　暗うてようわからん

その内　やっと大けな音もやまり　あたりも明かるうなったけんど　かんじん

の姫さまの姿は　どこにも見えざったそうな。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ぬく

　　5　　　半分ぬく

かたり　それからも　乳母のたきや家来はもちろん　村の人らあも集まってきて　そこら

　　　　あたりの山やら谷やら　みんなで必死になって　夜も昼も七日というもの　さが

　　　　しまわったけんど　どういたら見つからざったと。

女　かわいそうに　お姫さまは　天狗にさらわれたとちがう

男　それとも　ざまなタカにおそわれたか　どっちかじゃろうのう

女　なんにしろ　もう生きちょらせんねぇ

かたり　こういうて姫さまの噂をしたと。

たき　姫さま　たきがついておりながら　こんなことになって　たきも姫さまのおそばへ

　　　参ります

かたり　乳母のたきは申しわけない事になったと　高いガケから身を投げて死んだと

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　半分ぬく

　　6

かたり　ほいて姫さまが　可愛がりよった　猫のみゆきはというと　それからも　毎日ま

　　　　いにち

猫（なく）　ニャオー　ニャオー

かたり　なきながら　姫さまをさがして　あっちの森からこっちの尾根　谷を渡ったりヤ

　　　　ブをくぐったり

猫（なく）　ニャオー　ニャオー

かたり　姫さまを呼うで　たんねまわったと。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ここまでぬく

　　　　ほんでみゆきの身体は　ヤブのバラにひっかかれたり　トゲにもさされ　だんだ

　　　　んと体が弱って　エサもよう食べんようになって　姫さまを呼びながら　とうと

　　　　う死んでしもうたと。こんなに姫さまをしとうた　みゆきをかあいそうに思うた

　　　　村の人らあは　墓をつくりホコラをたて「ねこ神さま」と呼んで　おまつりしてお

　　　　るそうな。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　おわり